

漁村集落における空き家の発生要因と 住民意識に関する研究

—静岡県賀茂郡西伊豆町田子地区を事例として—

keywords: 空き家, 漁村集落, 空間分布, 住民意識

下村 蓮

1. 研究の背景と目的

我が国では現在7軒に1軒が空き家であり、空き家数がこの20年ほどで1.5倍、全国で約846万戸と急激に増加している。地方の衰退した農漁村集落では、若者の人口流出や高齢化に伴う人口減少が急激に進み、空き家の発生が後を絶たない状況である。本研究は、空き家の立地に着目して、空き家が増加する地域の特徴を明らかにする。また、空き家に対する住民の意識を把握し今後の空き家の整備方針を検討することを目的とする。

2. 研究概要

本研究では、人口減少や高齢化、産業の衰退が進む静岡県賀茂郡西伊豆町の漁村集落を対象とする。対象の漁村集落は7つの小地域からなる。分析方法としてガス使用量調査と実地踏査から空き家を特定・分類して空間分布を把握し、その立地の特徴を分析する。また、住民へのヒアリングを行い空き家の現状と今後に対する意識を調査する。

表1 地域別空き家件数と空き家率

地区	人口	建物数	その他 空き家	別荘	在住	空き家 率	別荘率
田子全体	1954	1407	326	63	1018	27.64%	4.4%
大田子	690	492	67	29	396	19.51%	5.8%
道西	268	176	43	5	128	27.27%	2.8%
道東	226	182	47	9	126	30.70%	4.9%
川向	174	138	34	2	102	26.00%	1.4%
月東	222	152	50	0	102	32.89%	0%
月西	299	201	54	8	139	30.84%	3.9%
浮島	75	62	22	7	33	46.77%	11.2%

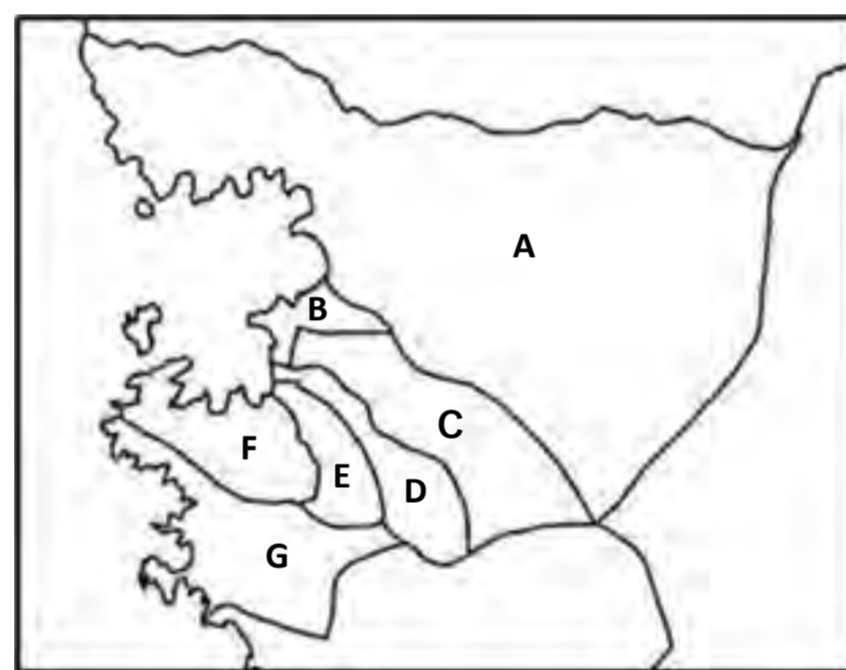


図1 対象地区の小地域

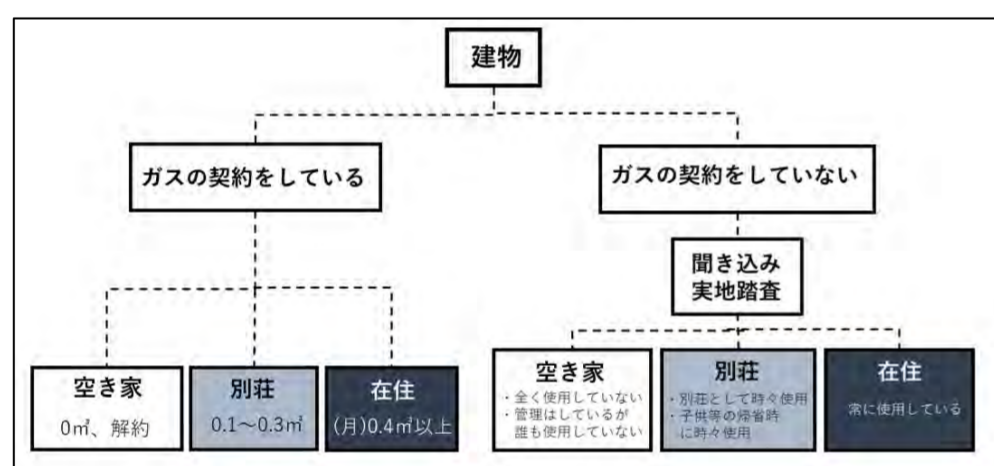


図2 空き家分類のフローチャート

3. 空き家の空間分布

対象地区地域別空き家件数と空き家率(表1)では、町の中心地かつ海側に位置するC, E, F地域では空き家率が他の地域と比較して高く、町の中心地から離れている大田子地区は空き家率が最も低い結果となった。また、Gは空き家率46.8%、別荘率11.2%であり他の地域と比較しても高い。この地域は別荘としての利用が多く、別荘であった建物が現在まで放置され空き家になってしまったと推察される。

空き家の空間分布(図3)から、階段の昇降が必要な場所、坂の上り下りが必要な場所に空き家が集中していることが明らかとなった。田子地区は山が多く地形的に住むことが可能な場所が限られている。しかし、漁業が盛んであった時代に港から近い敷地にこぞって住宅を建てたため山を削った標高の高い傾斜地にも住宅が密集した。そして、現在では住宅を建てた人たちが高齢で亡くなったり、体が不自由で外への移動が困難になり施設や子供のもとで暮らすために田子地区から離れたりしてその位置に建つ多くの住宅が空き家になってしまった。

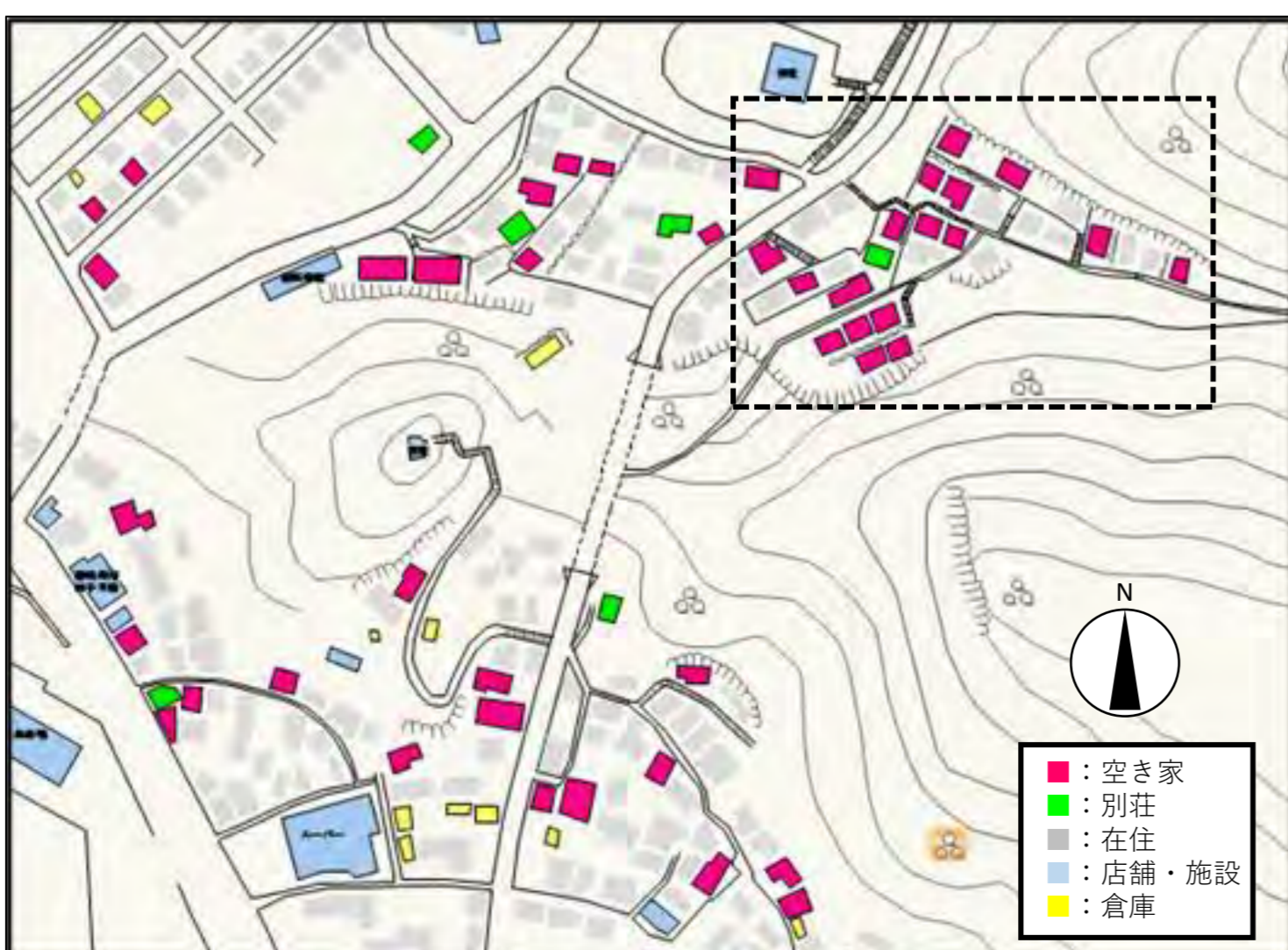


図3 空き家の空間分布図

4. ヒアリングと住民意識

ここでは、地区内に空き家を所有しているものに対して現状に対する意識を、空き家の所有に限らず地区に居住している者に対して今後に対する意識を調査した。

4.1 現状に対する意識

住宅以外の建物の使用状況では「物置として利用」が最も多かった。また、「全く使用していない」、換気のため「定期的に見に行く」等、その他空き家に該当する使用状況であるという人が多い。住民が考える空き家が増加した要因(図7)として「若い人の働く場所が無い」、「住宅を継ぐ人がいない」という「若者がいないこと」が強く影響している。加えて、建物を所有して困っていること(図5)の「後継ぎがない」、所有建物の今後(図6)の「子供などに相続」からも、若者に継いでほしいが就職や進学タイミングで若者が流出しているため住宅を継げる人員がいないという状況が推測できる。

4.2 今後に対する意識

空き家の今後(図8)について、「活用する」ことを望む意見が最も多かった。活用方法(図9)について「対象地区外から訪れた人が利用する場所をつくる」と回答した住民からは、農業に対し意欲のある若者に、空家を安価で貸して畑として利用し、空き家を住居として使用してもらうプログラムを開催する、ダイビングや磯釣り目的で訪れた人をターゲットにし、設備や環境を整えた施設をつくり活用する等の意見がみられた。一方、対象地区外の人を呼び込むことにごみ問題や治安問題などのリスクがあるため、反対であるという意見もみられた。

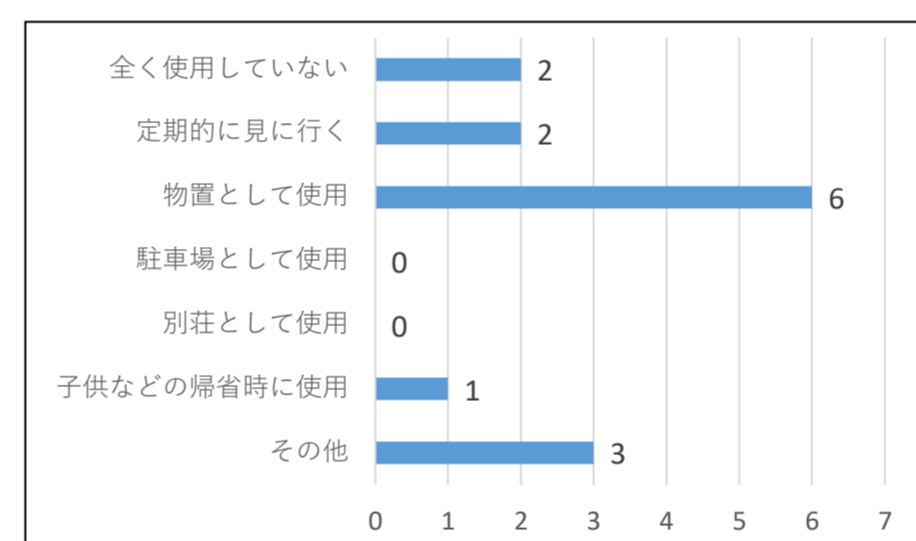


図4 所有建物の使用状況 (n=7 複数回答可)

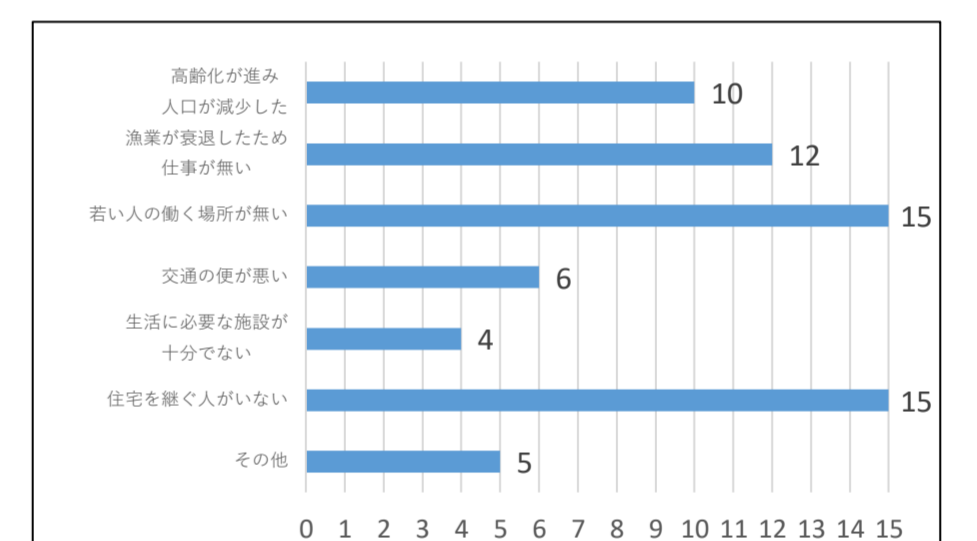


図7 空き家が増加した要因 (n=15 複数回答可)

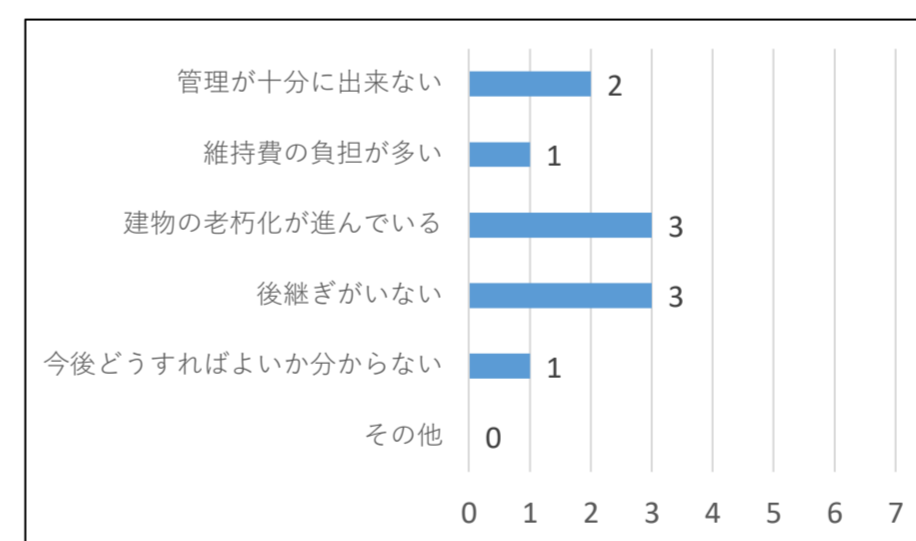


図5 建物を所有して困っていること (n=7 複数回答可)

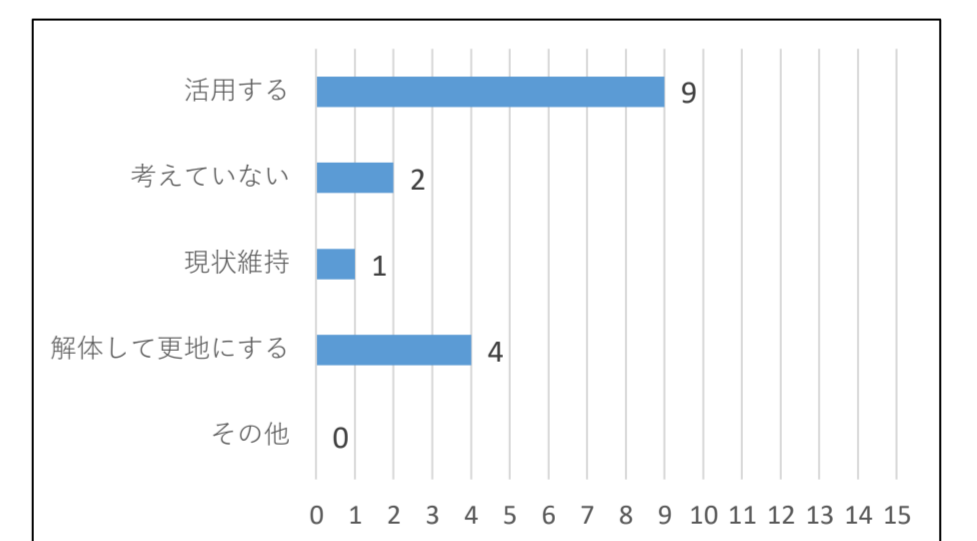


図8 空き家の今後 (n=15)

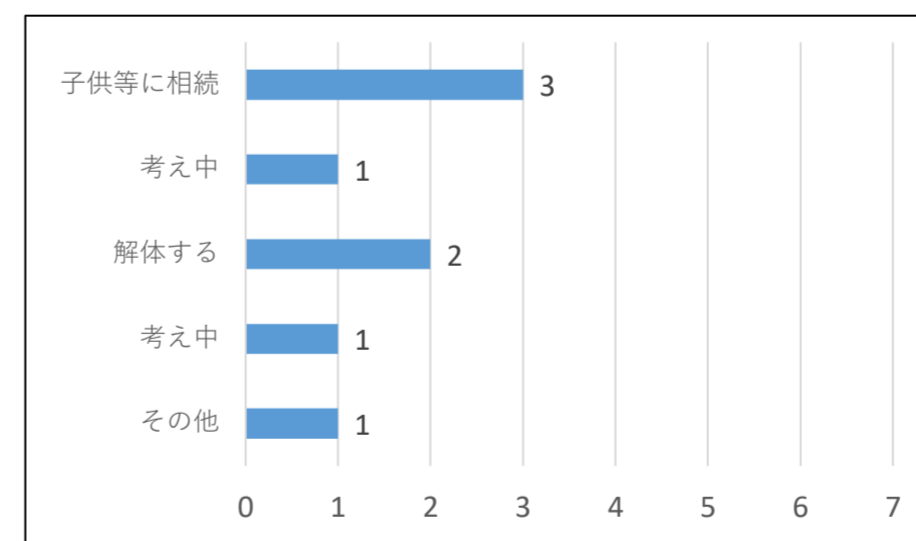


図6 所有建物の今後 (n=7 複数回答可)

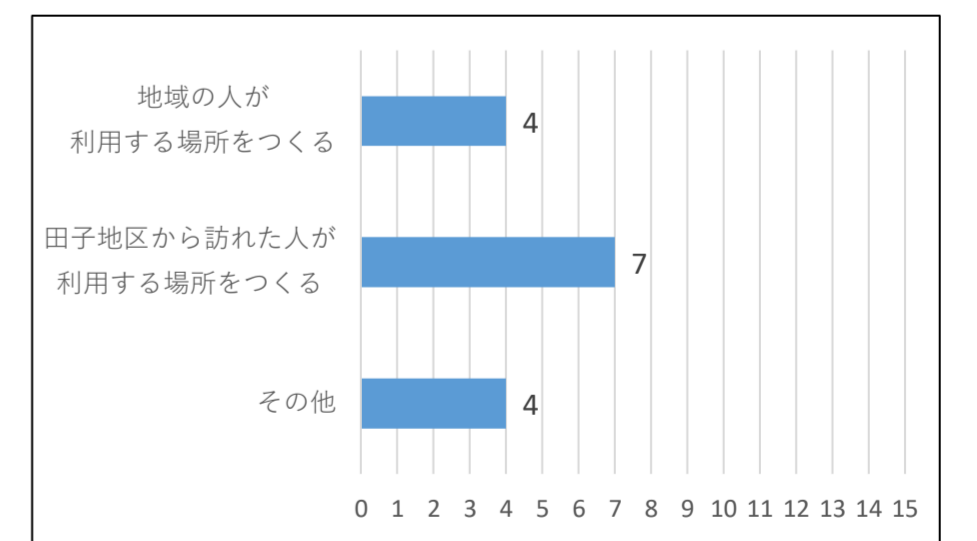


図9 空き家の活用方法 (n=15)

5. 結論

本研究は、西伊豆町の漁村集落における空き家の空間分布を把握し、立地から空き家の増加要因を探った。地区の中心地であるC, E, F地域や階段や坂の昇降が必要な場所で空き家が多い傾向が見られた。また、ヒアリングから空き家に対する地域住民の意識を把握し、若者がいないことが空き家増加の大きな要因であると住民が考えていることが明らかとなった。以上の結果から、坂や階段の昇降が必要な崖の上の空き家や中心地から外れた場所に位置する空き家は撤去を進め、中心地に残る空き家は活用する方針が望ましいと考える。また、活用する空き家を拠点として事業を展開することで雇用が生まれ、若者の就業環境や居場所をつくること出来る。対象地区は高齢化が進んでいるため、住民自身で空き家の撤去や再整備を進めることが困難である。そのため、行政が主体となって整備を進め、民間活力の利用も併せて検討する必要がある。